

「主体的に表現する児童の育成」

～小集団における主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

I 研究の内容

1 授業づくり・・・学力の実態把握と少人数や集団における効果的な学習方法と授業実践

- (1) NRT 検査, 全国学力・学習状況調査を分析して, 学習面の成果を把握し, 課題を明確にして今後の授業改善に生かす。
- (2) 各種調査で明らかになった児童の課題を改善するための効果的な学習方法の実践をする。
- (3) 指導主事を招聘しての授業研究の実践と一人一実践の取組。(11 月までに, 年間研究計画に入れる)
- (4) 講師を招聘しての研修。小集団における「主体的・対話的で深い学び」の効果的な学習方法について。
- (5) 少人数や小集団, 個を生かした「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業実践と検証。
(コミュニケーション, ICT の活用も含む)
- (6) 甲州市 Teacher' s Note の活用。
- (7) めあてと目的を明確にした一人一実践。
- (8) 授業における ICT (iPad, edutab, TV 会議システム等) の効果的な活用

2 学級集団づくり・・・児童の実態把握と集団づくり

- (1) Hyper-QU を生かした児童理解と集団づくり。PDCA サイクルを活用。
- (2) K13 法を用いた Hyper-QU の結果分析とアタックシートを活用した集団づくりを行う。児童一人一人を丁寧に見とり, 個を大切にす。
- (3) アタックシートの対応策には, 学年全体だけでなく, 要支援群に属する児童や, プロットの位置が教師の見とりと違う児童を中心においた策も考える。
- (4) 全体で K13 法を使って分析・考察を行う。

3 学びを促す環境づくり・・・学校生活の基盤づくり

- (1) 「大藤スタンダード」「家庭学習の手引き」「家庭教育実践事例集」「家庭教育 子育て Q&A」を活用した家庭学習の効果的な実践の取組。
- (2) 5つの合言葉の具体的な場面での取組を実践。学年に応じた「大藤スタンダード」の徹底。
<わくわく>・・・勉強のスタートは, 驚きや疑問, 楽しく学ぶ。
<のびのび>・・・何事も夢中である。徹底してする。
<なかよし>・・・いじめや仲間外れを生まない集団でいよう。
<にこにこ>・・・あいさつ, 返事をしっかりする。
<いきいき>・・・自ら考えて行動する。自分で決めて, 自分で守る。
- (3) 「ふじっこノート」の年間を通しての実施をする。

- (4) 家庭学習スタンバイの時間を帰りの会の前にとる。
- (5) 家庭学習と授業を有機的に結びつけ、知識探求や学習の復習をする。
- (6) ノートが終わったら、校長先生に見てもらおう。校長室前に積んでいく。
- (7) ふじっこノートをコピーして、1年教室前の廊下に学年ごと掲示する。
- (8) 毎週水曜日の朝学習は、1年廊下の算数プリントを行う。個々の能力に応じて、目標を設定し、計算の基礎・基本の力を付け、計画的に学習を決める自主性を養う。
- (9) 「大藤スタンダード」に基づき、生活面や学習規律の統一を行う。
- (10) キャリアパスポートを見通して、そのプレステップとして「グローアップカード」を作成し、学びの価値づけを児童一人一人にさせる。

II 成果と課題

(成果)

- ・今年度の研究で、個人の意見を大切にすることなど見えてきたことを来年度に生かしたい。
- ・5つの合言葉を意識して実践ができた。児童の目につくところにあつたので、すぐに指導できた。
- ・講師の先生による研修により、研究推進・授業改善の視点がより明確になり、勉強になった。
- ・中村指導主事を招聘して「主対的・対話的で深い学び」の学習会をし、深い学びの図や切り返しの発問等、授業で使える技術を学ぶことができた。特に深い学びの図は、知識のつながり方や場面、目的、価値とのつながり方が示されていて、自分の中で整理することができた。
- ・一人一実践により、先生方から多くのアドバイスをいただけ、授業改善に役立てることができた。
- ・集団作りや授業改善について、学んだことをできるだけ生かせるようにしたことで、子どもの力を少しでも伸ばすことができたと思う。
- ・ふじっこタワーとして、校長室の前に見える化したことで、成果がよくわかるとともに、校長先生に評価してもらえることで、児童の励みにもなっていた。内容や取り組み方については、担任が具体的に指導し、赤ペンを入れることは当然必要なので、少人数だからこそ手厚く見てやりたい。
- ・職員全体でK-13法を用いたQ-Uの結果分析ができたことは良かった。自分のクラス以外の児童にも、個に合った支援を行うことができた。いろいろな視点で学級集団を分析でき、多くの意見をいただいて助かっている。特に今年度は、複式のことも教えていただいて参考になった。

(課題)

- ・講師を呼んでの研修会の結果を生かすために、授業実践でどのような方法を取り、どのように迫っていくかが、もう少し追究していきたいところではないかと思う。それぞれが焦点化して実践したことが交流されていくと、より分かりやすいものになっていくと感じる。
- ・活動あつて学びなしにならないことが大事だと思う。分析・考察を生かして、子供たちが成長できてきたことは嬉しいが、うまくいかなかったところについてはしっかり総括をしたい。
- ・一人一実践の授業では、研究テーマである「主体的に表現する」児童を育成するための具体的な手立てや学習場面が、はっきりと授業者に意識されていないように感じた。主体的な児童を育てるため、教師は児童の側に立ち、日々の授業に励んでほしい。

III 成果物

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ・Q-U検査の分析結果、アタックシート | ・全校プロット図(2回分) |
| ・研究授業の指導案 | ・漢字、片仮名プリント(全学年分) |
| ・NRT検査の分析結果 | ・グローアップカード |

(研究主任 堀内 美紀)